

コード No. 18801

**Anti-Mouse
Claudin-12 (C) Rabbit IgG Affinity Purify**

容量 : 100 µg

- はじめに** : Claudin は遺伝子ファミリーを形成する 4 回膜貫通型タンパク質で、細胞膜内で重合しながら細胞間接着能を持つことにより、細胞膜を密着させてタイトジャンクションを形成します。また、同種類間でも異なる種類の claudin 間でも会合します。その構造は、N 末端と C 末端を細胞内に向け細胞外に 2 つのループを持つような形で膜に組み込まれています。基本構造はファミリー間で共通しており、C 末端部分は膜裏打ちタンパク質 ZO-1、ZO-2、ZO-3 の PDZ ドメインと結合し、その分子量は 20-27kDa です。Claudin-1、-2、-6、-7、-15 はマウス肝臓、腎臓などに、Claudin-5 はマウス血管内皮に分布することが知られています。
- 免疫抗原** : Mouse Claudin-12 の C 端部分合成ペプチド (GMHTYSQPYSSRSRLSAI)
- 精製方法** : 抗原ペプチドによる特異精製
- 包装形態** : 1 % BSA, 0.05 % NaN₃ 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥
- 再生方法** : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は 100 µg/mL となります)
- 保存方法及び安定性** : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定
溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定
- 使用目的及び使用方法** : 免疫細胞、組織染色 5 µg/mL にて使用可能 (凍結切片)
ウエスタン・ブロッティング 0.5 µg/mL にて使用可能
- 特異性** : Claudin-12 に特異的。Claudin-1, -2, -3, -4, -5, -6, -7, -8, -15 とは反応しません。(Transfectant を用いたウエスタン・ブロッティングにて確認)
- 参考文献** : 1. Fujita H, Chiba H, Yokozaki H, Sakai N, Sugimoto K, Wada T, Kojima T, Yamashita T, Sawada N. Differential expression and subcellular localization of claudin-7, -8, -12, -13, and -15 along the mouse intestine.: J Histochem Cytochem. 2006 Aug ;54 (8) :933-44.
2. Chiba H, Kojima T, Osanai M, Sawada N.: The significance of interferon-gamma-triggered internalization of tight-junction proteins in inflammatory bowel disease.: Sci STKE. 2006 Jan 3;2006(316):pe1.